

授業科目(ナンバリング)	臨床栄養管理学Ⅱ (IB261) (実践的教育科目)			担当教員	林 俊介 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本科目は、疾病構造の理解と各疾病治療ガイドラインに基づいた標準的な治療および栄養療法を学修する。それぞれの疾患に合わせた傷病者の治療のための適切な薬物・運動・食事療法、手術、また生活習慣の改善などの学修を深めていく。適時、授業内でディスカッションを行い、理解を深め、受講者のより効果的な学修活動を展開し、知識の定着を図る。そして、チーム医療の中で関連職種と連携し、適切な栄養療法等を実践できる知識・技能を身につける。</p>							② ③ ⑩ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<p>様々な疾患・病態に対し、その疾患の概要(定義・原因・疾病構造・社会的背景・地域性など)を正しく理解し、その病気の持つ社会的意味を我が国の食生活の変遷と現状、食文化との関わりから説明できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>授業態度・授業への参加度</li> <li>課題レポート</li> <li>定期試験</li> </ul>	<p>10%</p> <p>10%</p> <p>25%</p>	
情報収集、分析力	<p>各種疾患における診断基準や治療ガイドラインを理解し、標準的な治療方法を説明できる。それぞれの疾患に対する栄養管理の知識を用いて食生活の改善、生活習慣改善について説明できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> <li>課題レポート</li> </ul>	<p>20%</p> <p>10%</p>	
コミュニケーション力	<p>栄養療法を行う上で、各疾患でコントロールが必要とされる栄養素について、その機能と代謝を説明できる。それを食品、料理のレベルで説明できる。チーム医療の中で、それを提案、討議できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> </ul>	<p>5%</p>	
協働・課題解決力	<p>疾患の治療のために患者の様々なデータ、情報等から患者の病態を把握し、問題点を考えることができる。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知り、それらについて専門職の立場で提案できる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> </ul>	<p>10%</p>	
多様性理解力	<p>対象者の疾患や病態だけでなく、ライフステージや身体状況、食生活、地域性などを深く理解し、栄養管理や食事療法、栄養教育を通して病状の改善、生活の質(QOL)の向上について考えることができる。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験</li> </ul>	<p>10%</p>	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験の成績を70%とし筆記試験を行う。課題レポートは、9回目に、それまでの授業内容に関係する課題を問う。</li> <li>定期試験及び課題レポートは、それぞれの疾患の概要と標準的な治療の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法の実践について理論的に説明が出来るかを評価する。授業態度・授業への参加度は、リフレクシオンカードやディスカッション、授業中の態度、取組み、関心・意欲、質問等に対する返答で評価し、課題レポートと合わせ、ポートフォリオや授業の中でフィードバックを行う。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>医療機関勤務での給食管理、栄養指導、栄養管理等の業務経験を活かし、様々な疾患に対する病態の理解から治療、栄養管理、食事療法の基本を実践的な授業展開により学修する。授業では、教科書以外に必要なに応じてプリント、パワーポイント、映像、関連資料(栄養剤、治療用特殊食品)等を用いて行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)</p> <p>参考書：日本標準食品成分表、日本人の食事摂取基準(2020年版)、各種疾患に対する診療ガイドライン</p> <p>指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本科目は今後臨床栄養分野の専門科目の学修の導入となるものである。また、これまで学修してきた基礎科目を基に学んで行く。各科目で学修した知識を繋げて理解することが大切で、それにより深い理解が出来るようになる。そして、発展的に学修を積み重ねていくためにもこれまで学修してきた内容をしっかり復習して、各回の単元、テーマに沿って予習をして臨むようにすること。ポートフォリオを活用し、指示した各回の学修内容の予習・復習に取り組むこと。授業を通じて実際の症例を数多く学修し、様々な疾患に対して正しい知識と認識を身につけ、そして、学びの質を高めるように取り組むこと。また、授業中の私語、スマートフォン等の不必要な使用は、厳禁である。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	代謝性疾患(1)	脂質異常症(高脂血症)、動脈硬化性疾患 (脂質代謝 油脂の質と量のコントロール メタボリックシンドローム 動脈硬化 ガイドライン)	メタボリックシンドロームの概要を予習。脂質異常症について復習。
2	代謝性疾患(2)	糖尿病とその合併症 (血糖コントロール 食事療法 体重管理 インスリン療法 食品交換表)	糖尿病の概要を予習。糖尿病の治療について復習。
3	代謝性疾患(3)	高尿酸血症・痛風 (プリン体 痛風発作 生活習慣病 生活指導 薬物療法)	高尿酸血症・痛風の概要を予習。高尿酸血症・痛風の治療について復習。
4	消化器疾患(1)	口内炎・舌炎、胃・食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、蛋白漏出性胃腸症 (炎症 ヘリコバクター・ピロリ 低アルブミン血症 浮腫 セルフチェックシート)	消化管の構造と機能、炎症について予習。消化管の炎症性疾患に対する治療について復習。
5	消化器疾患(2)	炎症性腸疾患(IBS)(クローン病・潰瘍性大腸炎) (成分栄養剤 回復食 粥食 軟菜食)	炎症性腸疾患の概要を予習。治療と栄養管理について復習。
6	消化器疾患(3)	過敏性腸症候群・便秘・下痢 (ストレス 排便コントロール 食物繊維)	便秘・下痢の概要を予習。治療と栄養管理について復習。
7	消化器疾患(4)	肝炎(急性・慢性)・劇症肝炎・脂肪肝・アルコール性肝障害 (肝炎ウイルス NASH NAFLD 鉄制限食)	肝臓の構造と機能について予習。肝炎の治療と栄養管理について復習。
8	消化器疾患(5)	肝硬変(代償期・非代償期) (肝不全 臓器移植 分岐鎖アミノ酸 アミノ酸インバランス アミノ酸成分表 フィッシャー比 成分栄養剤 夜食療法) ・長崎県や学修者の出身地の疾患の罹患状況など地域の現状を知る。	肝硬変の概要について予習。肝硬変の治療と栄養管理について復習。
9	消化器疾患(6)	胆石症・胆嚢炎・膵炎(急性・慢性) (肥満 胆石 アルコール 脂質コントロール食) *課題レポート	肥満と消化器の構造について予習。胆嚢疾患の治療と栄養管理について復習。
10	循環器疾患(1)	高血圧症 (食塩摂取量 減塩 血圧管理 仮面高血圧 白衣高血圧 早朝高血圧 生活習慣改善 ガイドライン)	高血圧症の概要について予習。高血圧症の治療と栄養管理について復習。
11	循環器疾患(2)	動脈硬化症 (粥状硬化 プラーク 動脈硬化性疾患 ガイドライン)	動脈硬化症の概要について予習。動脈硬化症の治療と栄養管理について復習。
12	循環器疾患(3)	虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)・うっ血性心不全 (生活習慣 血圧 食塩摂取 薬物療法 体循環・肺循環 浮腫)	心疾患の概要について予習。心疾患の治療と栄養管理について復習。
13	循環器疾患(4) 感覚器・神経の疾患	脳血管障害、脳卒中・脳梗塞、くも膜下出血 (脳血栓・塞栓 後遺症 麻痺 嚥下障害 リハビリテーション栄養)	脳血管障害の概要について予習。脳血管疾患の治療と栄養管理について復習。
14	精神疾患(1) 摂食障害	神経性やせ症(拒食症)、神経性過食症(過食症) (やせ願望 ダイエット カウンセリング 認知行動療法 チーム医療)	摂食障害の概要について予習。摂食障害の治療と栄養管理について復習。
15	精神疾患(2) 依存症	アルコール依存症 (急性・慢性アルコール中毒 離脱症状 断酒 患者会 社会復帰 アルコール健康障害対策基本法)	依存症の概要について予習。依存症の治療と栄養管理について復習。
16	定期試験		